



2009.6.30 発行

# めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人)横浜のケアサービスネットワーク

第21号

Vol.6 No.1



総会講演報告 地域と医療の役割を考える ..... 1



SST の現場から ライブスーパービジョンを受けて ..... 5



就労の取り組み 横浜市上大岡就労支援センターを訪ねて ..... 7



地域の取り組み 知的障がい者の制度にない支援に取り組む「であい」 ..... 9



予定・報告 ..... 11

## 総会講演報告

### 地域と医療の役割について考える

～ YMSN 第 9 回総会と、その後の講演会の報告から ～

5月23日(土)午後2時より横浜メンタルサービスネットワークの第9回総会が開催された(会場は横浜市消費生活センター)。委任状を含め44名の参加があり、2008年度事業報告および決算報告、2009年度事業計画、予算書案については滞りなく承認された。また、来年度、当法人が10周年を迎えることを参加者で改めて確認した。10周年をどうするか? については今年度理事会でも重要事項として検討されていくと思われる。

総会后、舩松(へのまつ)克代氏(当法人理事・田園調布学園大学)による講演「医療と地域の役割を考える」が行われた。この講演会では、20名の出席者と意見交換も行われた。以下内容を報告したい。

はじめに

何故このテーマを取り上げたか?

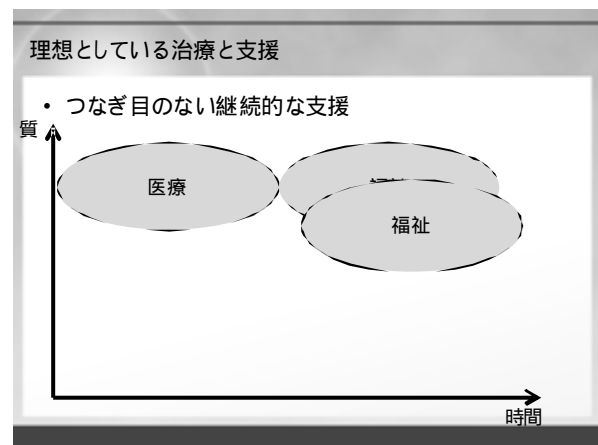
医療現場の崩壊と福祉現場の疲弊の現状  
精神科医療の変化、急性期主体、対象患者の多様化

福祉現場の変化、3障がいの統合、病状の安定が図れないケースの対応

みな頑張っているが、ばらばらに頑張っているように感じてしまう。

今こそ医療と福祉のそれぞれの役割を再認識

し、互いに連携をもった体制作りが必要なのは? という理由からである。もともと理想としている治療と支援というのは、医療と福祉が時間的にも質的にもつなぎ目のない継続支援である。

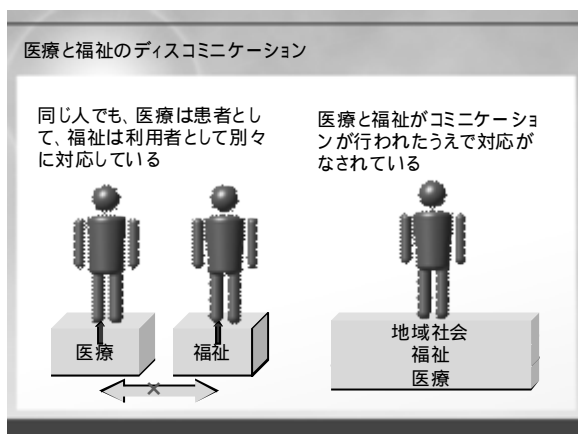


では、現実はどうか?

医療サイドからみると、紹介できる施設がない。地域でもっと支える力がなければ、病院で丸抱えになってしまう。なんでも厄介な問題は医療に押し付ける。医療に依存しすぎ。という実態がある。

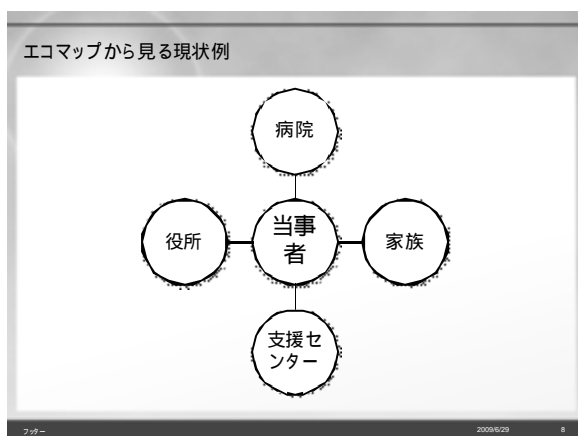
また福祉サイドからみると、重症度の高い人を送ってくる。福祉施設につながった途端、医療が手を引く。継続した医療を提供してほしい。ほしい情報をくれない。緊急のときの受け入れが悪い。という実態が指摘される。

## 医療と福祉のディスコミュニケーション



医療と福祉のディスコミュニケーションの不足が、同じ人であっても、医療は患者として、福祉は利用者として別々に対応している状況を生み出している。医療と福祉のコミュニケーションが行われたうえで対応がなされれば別々ではなく一人に対し統合された対応ができる。

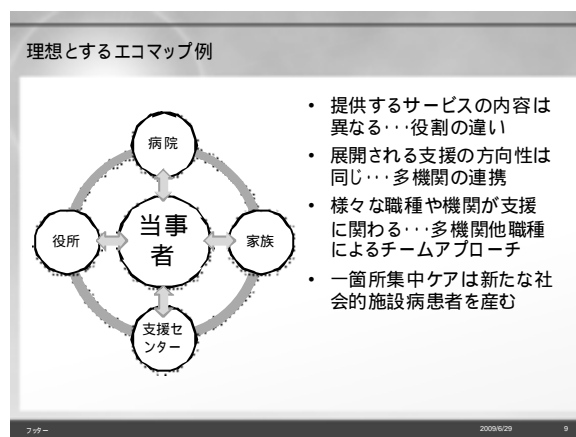
## エコマップから見る現状例



精神障がいのある方は、生活者であり、(例えば)女性であり、疾患を有し、障がいがある。疲れやすい・働けない・できれば薬を飲みたくない・結婚して子どもを産みたい・将来が不安で眠れないというような状況を抱えているとすると線引きのできない支援が必要なのである。

## 理想とするエコマップ例

- ・ 提供するサービスの内容は異なる…役割の違い
- ・ 展開される支援の方向性は同じ…多機関の連携
- ・ 様々な職種や機関が支援に関わる…多機関等職種によるチームアプローチ
- ・ 一箇所集中ケアは新たな社会的施設病患者を産む



では、理想を実現するためには、どうしたらよいのか？ 舩松氏は次のようなことを提言として示した。

- ・ 医療従事者はもっと福祉モデルを学び、念頭に置いた治療プランを行う
- ・ 福祉職は医学的アセスメントを他人任せにせず、そのための力をつける
- ・ 所属機関で「すべて解決しよう」、または「限界がある」と考えない
- ・ 他施設にお任せするのではなく、連携を取って密な情報交換を行う
- ・ それぞれの施設の特性を生かし、その人の支援のなかで何を担うのかを明確にしつつ、他の支援の在り方にも目を配ること

## 講演後のディスカッション

講演後、以下のような内容の意見交換が行われた。

「デイケアは第2の（社会的）施設病を生むところになりうる」

という指摘を受け、医療側からは確かにその可能性があるという発言があった。「デイケアが温室である」こと、グループの雰囲気をつくるのが難しい... 家族にも経済的にも恵まれていて就労を考えずにきた、また、一度も働いたことがない患者さんが多い等の状況をあげていた。

「福祉職は医学的アセスメントを他人任せにせず、そのための力をつける」

という提言についても福祉の立場から、そのままを受け止め「福祉職は確かに医学的アセスメントを他人任せにせずもっと力をつける必要があるのではないか？」との発言があった。

医療の立場からは、「医師の診断は鵜呑みにしているつもりはないが、半数は他のクリニックからも受け入れている、治療は元のところで受けている」実態に、「一人一人の面談に頼ることになる。診断も鵜呑みにせざるを得ない」という苦しい実情が語られた。さらに医師の側からも、「医学的アセスメントはあぶない」。外来では生活をみられず、そのために診断できないこともある。24時間のうちの3分しかみられない。患者の一部しかみられないという良識を医療側がもつことも必要であるとの貴重な発言もあった。

「障がいモデルで日本の福祉ができています。がんじがらめになっている制度の範疇に入らない人たち、育て直さなければならない人たちへの対応



を医療がやらなければならない。障がいに入らない場合は医療にまかせっきりになっている」との指摘もあった。

医療の立場からは「訳のわからないことを言っている人を皆、精神科にまわしてくる。押し付けられてしまう。また、何かの病名をつけなければ制度が使えない。医学アセスメントは一時的なもの、どこに生活の問題があるかわからない、一つの情報にすぎないということである。医師への丸投げではなくもっと福祉職は本人の自己決定をしやすいように整理してあげてほしい」。

舩松氏は「診断をつける時、医者も不安になることもある。福祉職場は生活をみているのに、自信がない場合もあり『こういう風にも考えられるのではないか？ いかがでしょうか？』と福祉職側がもっと提案してもよいのではないかと語った。

福祉職側からは、「もっと知識武装をしよう」との声もあがった。連携についても「医療現場の役割の一つとして認識してほしい。連携はスムーズに行くのが一番なので、知り合いを作って一緒に勉強しながら... というところから始まるのかな」との提案もあった。

最後に舩松氏から、「医療現場は益々きびしく

なっていて国立も民間医療も儲けなければいけない時代になっている。福祉は制度ができたためにしばられ、振り回されている。このような状況の中でも、今、目の前にいる人に何ができるのか？ を考えていかなければならない」と述べた。

りにされ、これからすぐにでも取り組まなければならないことを明らかにできた。有意義な時間をもてたと思う。

(YMSN 理事 森川充子)

今回の講演を聞き、出席者が意見交換できたことで、私たちがそれぞれの立場で日常的に不安や不満、また疑問に思っていることが改めて浮き彫

2009年度 精神保健福祉研修会へどうぞ！！

下記の予定で計画中です。どなたでも自由にご参加ください。但し、内容が変わることがありますので、ホームページでご確認ください。

精神保健福祉の新情報を学ぶ		地域発、実践報告	
4月	精神科の薬	5月	地域生活支援センター「サンライズ」の取り組み
6月	神奈川の精神保健福祉	7月	病院看護職の実践
8月	ホームヘルプサービスの現状	9月	里親の悩み
10月	精神医学・病気について	11月	教育現場からの悩み・相談
12月	神奈川の就労支援の歴史	1月	就労移行支援事業所の実践
2月	うつ病とEAPについて	3月	ジョブコーチの実践報告

どなたでも参加できます。

会費： 会員 1000 円(年額) 非会員 4000 円(年額) または、各回 500 円

講座内容により、追加費用が発生する場合がありますので、ご了承ください。

場所： ウィリング横浜 11 階会議室 (上大岡駅オフィスタワー)

時間： 19:00～20:30

## ライブスーパービジョンを受けて

～ S V が大きな励みに、壁にぶつかった時はまた S V を受けてたい ～

横浜市総合保健医療センターデイケア 作業療法士 田原智昭

### はじめに

私は、4月の全体会において、日ごろデイケア（以下、DC）で行っているSST（社会生活技能訓練）のスーパービジョン（以下、SV）を受ける機会を得ましたので、報告をさせていただきます。

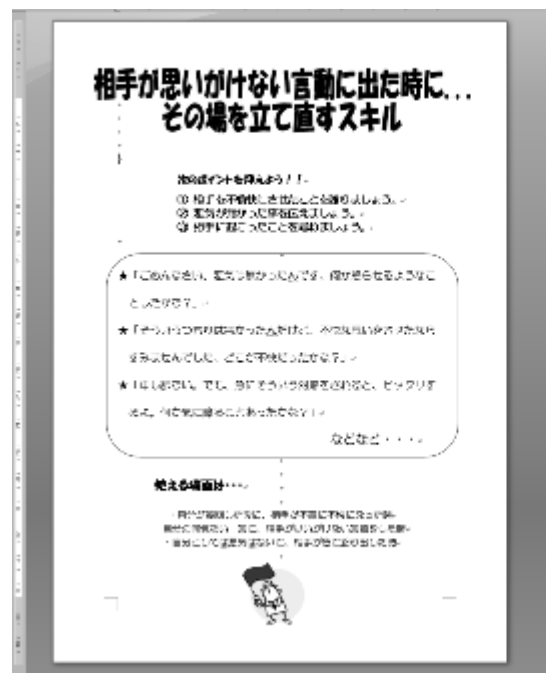
はじめに、グループの概要を紹介します。このグループはDCに通う、主に統合失調症の方8人（平均参加は5人）とスタッフ2人（リーダー・コリーダーを交替で運営）です。グループの多くの方は、「挨拶をして一言いう」「雑談が出来るようになる」などの長期目標を掲げています。内容は全10回を1クールとした基本訓練モデルを取り上げるセッションが中心です。

### S V 受けるにあたって

私は、臨床経験4年目、SST経験2年目で、今回でグループを担当するのは5回目（基本訓練グループは1回目）です。その中でのSVとあって、とても緊張した時間でした。

### S V で実施した内容

今回は上記のようなグループの、9回目と10回目のセッションでの出来事を取り上げSVを受けました。以下は、取り上げた内容についての概要です。



私は、9回目のセッションで、利用者さんから「まだあまり親しくない人と話していて、自分の態度（話題など）によって、相手が不意に思いがけない言動に出たときに、どう振舞ったら良かったのか」という主旨の課題が挙がった際、私自身「どう振舞ったらよいか」という課題に対しての対処スキルが思いつかなかったため、「そもそも話題選びは適切であったのか」という論点に切り替えて、課題を「話題選び」にしてセッションを進めました。

その後の、アフターセッションと10回目のプレセッションの中で、確かに「話題選び」も

大切なポイントであるが、課題を挙げた利用者さんにとっては、「どう振舞ったらよいか」が分からない事で、デイケアへの適応が難しくなり、通所中断になる可能性が高いので、今すぐに少しでも適応出来るようになるための具体的なスキル獲得を目指す事も大切だろう、という事が振り返りとして挙がりました。

そこで、10回目は、その回でクールが終わるという事もあり、確実にスキルを身につけて貰うことにポイントをおいて「相手が不意に思いがけない言動に出たときに、その場を立て直すスキル」についてのプリントを作成し、それを用いて、利用者さんから出た「どう振舞ったらよいか」という課題について取り組みました。

---

以上の出来事を、実際にセッションの形式で約20分程度デモンストレーションをし、その後S Vを受けました。

#### 認定講師からのS V

認定講師の先生方からは、「メンバーさんの言葉一つひとつを大切にしたとても丁寧なセッションであった」「1回目のセッションで、“適切な話題”をポイントにして進めたのは、決して間違いではなかっただろう。長期的な視点に立てば、処理（話題）の幅を広げて、不適切な話題で話すような場面をそもそも持たなくて済むような対処スキルを身につけていくことが大切である」「“相手が不意に思いがけない言動に出たときに、その場を立て直すスキル”のプリントは参考になる」などの言葉を頂きました。

#### S Vの機会を得て

今回、S Vを受けるにあたって、事前に改めてセッションを振り返る機会がもて、自分が迷った部分や困難に感じた場面を再度確認することが出来ました。しかし、認定講師の先生方を前に、上手くいかなかったセッションをデモンストレーションすることに大きな不安を感じていたことも事実です。実際には、肯定的な言葉で評価して貰えた事で、今後新しいグループでS S Tを行っていく際の大きな励みになり、加えて新たな視点や考え方を持てる貴重な時間となりました。

また、セッションの前後に行うプレセッションとアフターセッションの大切さも改めて感じました。セッションでの疑問点を直ちに振り返り、参加していないスタッフからの視点を入れたうえで次のセッションに備えることで、10回1クールという連続開催している事のメリットを生かせたのだと思いました。

最後に、S Vを受けたことによって新たに疑問や課題が見つかり、今後S S Tを行っていく中でそれを確認しながら、壁にぶつかった際は機会があれば改めてS Vを受けられればと思います。

## 就労の取り組み

### 横浜市上大岡就労支援センターを訪ねて

～ ここを利用したくなるサービスをたくさん作りたい ～

先日、横浜上大岡就労支援センター（運営は「NPO 法人わーくあーつ」）を訪問しました。2009年1月5日オープンはこのセンターは、特に精神障がい者への就労支援に力を入れることとして、横浜市が設置（市内8カ所目）しました。

場所は「上大岡」駅から徒歩4分。京浜急行、横浜市営地下鉄の2路線を利用できる好立地にあります。建物は2階建てで1階と2階の2フロアが利用でき、いろいろな企画が作れそうな室内です。特にカフェ風な外観が印象的で、また足を運びたくなるような素敵な場所です。

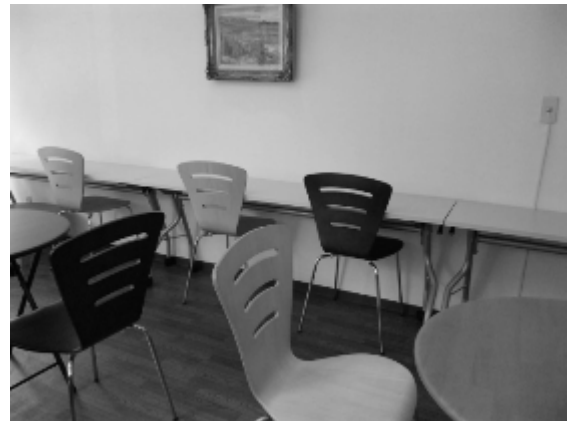
ほぼ6カ月経過した現状を所長の佐織壽雄さんにインタビューしてきました。

#### - 利用状況は...?

現在登録者数108人です。障がい別で分けると、全体の9割の方が精神障がい者の利用です。特に港南区生活支援センターを利用している方やデイケアを利用されている方が、紹介合ってこのセンターを訪ねてくれるのはうれしいですね。その他では、横浜市内の他の就労支援センターからの紹介で利用される方もいます。

#### - どんな方がどういう形で利用できるのですか？

どんな方がいらしても相談に応じます。最近ご家族からの相談も何件ありました。すぐに就労につながらなくても、話をお聞きし、その方の現状に合った支援機関を紹介することもあります。他には、特別支援学校の先生から企業に就職した後の定着支援の依頼もありました。



そういう場合は企業に出向き、企業やご本人の双方の橋渡しをする役割をします。実際には、利用者のご相談に乗ること（カウンセリング）が現在の主要な業務の中心になっています。

#### - 6カ月たって、変化がありますか？

現在6カ月経過し、登録者の1割の方が秋には就職したいと希望しています。今後はハローワークと密接な関係を作り、協力して就職先企業を増やしていく予定です。

#### - 相談のほかに利用者向けプログラムはあるのですか？

このスペースを有効活用できるようなプログラムを企画中です。例えば、同時に3人の方の相談が可能ですので、サロン風相談室。また、ジョブガイダンス的な研修会、パソコンを活用した職業訓練、休職中の方のリハビリ出勤の場などに利用してもらえるのではないかと考えています。ここを利用したくなるサービスをたくさん作りたいと思っています。そして今後はこのプランをまとめ、実施していくために関係機



関との連携をとり、それぞれの得意な資源を活用してお互いが相乗効果を生み出せるような、地域のネットワークを活性化させる担い手として発展していきたいと思っています。

- まず、今一番先に取り組むことは何ですか？

まずは、就職先企業を探すために、ハローワークの当局に働きかけ、障がい者雇用率を達していない企業を中心に働きかけ、求職中の障がい者の職業訓練の場を見学してもらうなどの企業への普及啓発と、ミニ面接会のような企画を考えています。

- インタビューを終えて...

所長の佐織さんは、ある特例子会社で障がい者雇用の採用を担当し、社内では上司として、またカウンセラーとして長い経験と実績があります。筆者とは以前から交流があったのですが、企業から就労支援センターへの転職は驚きでした。佐織さんは、前職で築いてきた東京都内や神奈川県内での精神障がい者の職業訓練を通し、多くの当事者が企業就労して継続できたという

経験を、地元の横浜市からもっと広く発信したいと欲するの転職だそうです。

多くの精神障がい者の安定した就職は、就労支援に取り組んできた者の願いでした。そこを担う機関ができたことは大変うれしく思います。

またYMSNにとっても、同じ地域に就労支援センターができたことは、大きなメリットです。これまで取り組んできた就労準備と定着支援の間を繋ぐ就職支援を就労支援センターが担ってくれることで、「準備～就職～定着」という一貫した流れを作ることができるからです。1機関のみが担うのではない、連携した一貫した流れの形を横浜上大岡から発信していけるきざしが見えてきました。

インタビューを通して、就労支援センターの働きは地域から発信できるものだと感じました。港南区では、精神障がい者を支えるネットワークも活発です。今後は地域で協力した新しい取り組みを発信し、横浜市の就労支援事業に一石を投げられそうな、そんな気がしました。

(YMSN 鈴木弘美)

## 参考

地域就労支援センターとは・・・

障がい者の就労の促進と定着を図るため、障がい者・関係者に対して就労に関する相談、就職に向けた支援（職場実習・職場開拓）、就職後の職場定着支援（相談・訪問による支援、職場との調整等）、事業主に対する障がい者の雇用に関する相談等を行うセンターです。就労中の方でも利用できます。

名称	住所	電話・FAX
横浜東部 就労支援センター	〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-1-3 アートビル4F	TEL: 045-312-5123 FAX: 045-312-5123
横浜西部 就労支援センター	〒241-0835 横浜市旭区柏町36-15 柏ハーモニービル202	TEL: 045-390-3119 FAX: 045-390-3129
横浜中部 就労支援センター	〒220-0023 横浜市西区平沼1-38-3 横浜NSビル4階	TEL: 045-350-2044 FAX: 045-350-2644
横浜南部 就労支援センター	〒235-0032 横浜市磯子区新杉田町8-7 電機神奈川福祉センター内	TEL: 045-775-1566 FAX: 045-775-1630
横浜北部 就労支援センター	〒226-0011 横浜市緑区中山町306-1 ミヨシズ・シードビル405	TEL: 045-937-3384 FAX: 045-937-2778
横浜戸塚 就労支援センター	〒224-0003 横浜市戸塚区戸塚町4111 吉原ビル4階	TEL: 045-869-2323 FAX: 045-865-3172
横浜上大岡 就労支援センター	〒233-0002 横浜市港南区上大岡西2-10-21	TEL: 045-844-4402 FAX: 045-844-4403
横浜市精神障がい者就労 支援センターぱーとなー	〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1735 横浜市総合保健医療センター1階	TEL: 045-475-0142 FAX: 045-475-0106



## 地域の取り組み

### 知的障がい者の制度にない支援に取り組む「であい」

～ 第21回横浜駅伝に参加 全員が完走 ～

YMSNの精神保健福祉研修会で、知的障がい者を対象者とした制度にない支援に取り組む「であい」の話の話を聞きました。そこから始まった駅伝参加のレポートをお伝えします。

「であい」とは...

まず、「であい」の紹介をしたいと思います。三浦市にある子育て・生活支援場「であい」は、代表を宮崎祥司さんが務める個人運営の障がい者支援を行う場です。日中活動の場を提供するだけでなく、緊急時には宿泊支援も行うなどの柔軟な対応をしています。スタッフは宮崎さん、宮崎さんのつれあいである宮崎章子さん、宮崎さんのお母様と、とても家庭的な雰囲気の中で、対象者は障がいのある子どもですが、知的障がい児・者の利用がほとんどです。

主な活動内容は、ショートステイ、デイ活動、イベント（いちご狩りやみかん狩りなど）などです。

そして、具体的な活動としては、公共の乗り物（電車やバス）を使って城ヶ崎や観音崎、ソレイユの丘、荒崎などの観光地に行ったりし、夏には近隣の海で海水浴やプールでの活動、雨天時には温水プールや図書館、横浜子ども科学館、横浜市電保存館、アンパンマンミュージアムなどの公共施設を利用します。その他、買い物や簡単な調理、認知学習活動なども行います。

そして何よりも体作りを大事にし、三浦という自然豊かな地で運動の基本である歩きを大切に、散歩やウォーキング、ハイキングなどを行い、周辺の農道や海岸、三浦富士、磯場へも行きます。

この体づくりを大切にしていることのひとつに「横浜駅伝」があるのだそうです。

何より代表の宮崎さんは、本人が「依存症」と言うほどのマラソン、ランニング好きで、過去にフルマラソンやウルトラマラソンの参加も多数のランナーです。ただ数年前に膝を壊し、2年以上走れない時期がありました。

この様に記述すると、まるで氏の個人的な趣味の延長上にある様な誤解を受けるかも知れませんが、チームの皆さんが走る姿をみて、その様なことはないように感じました。

横浜駅伝とは...

横浜駅伝は42.195 kmを7人のランナーで走ります。お祭りの要素もあり、仮装して参加のチームも見受けられ、それぞれのチームが思い思いの仮装をして走り、観客を楽しませてくれています。当日は天気も良く、非常に暑そうではありません(髭男爵、戦隊ヒーロー的、クラウザー 世、などのコスプレです)。

チームの紹介

このチームは例年この大会に参加し、今回で4回目だそうです。チーム名は「精神一到何事不成！」(意味は各々で調べて頂けると助かります)と「スマイルランナース」の2チームです。主なランナーは、宮崎さん、章子さん、主に利用されているメンバーさんやそのご家族です。それと、例年ランナー不足でランナー募集中ですが、今回この呼びかけに賛同して、栄区の地域活動支援センター職員佐々木一成さんがランナーとして参



加しました。

チームのメンバーの声を紹介します。ランナーの一人の方の抱負は「ブービー」。お父さん曰く、本人は走るのが好きだそうで、去年から学校の周りを昼休みに先生と一緒に走って練習しているそうです。感想は「また頑張ります」でした。

また、本人と共にランナーとして参加したお姉さんは「走るのは好きじゃないけど、自分の分担を頑張りました」と、「(本人が)また出られれば」と笑顔で語りました。

またあるメンバーについては、宮崎さん曰く、「コツコツ走ってきた、シャイでヤル気のある男」でした。

あるご家族は、「以前参加した際に、歩いて参加したので、それだけで頑張れー！と応援の方々から声援を受けたことが忘れられない」と話してくれました。

ゴールは...

本人、スタッフ、ご家族、他施設スタッフと個性豊かな面々での参加でした。結果は、アンカーを務めた佐々木さんがタスキを渡された時点で既に、3時間31分と文句の付けようのない最下位でしたが、「であい」の皆さんがまず参加すること自体を楽しんでいるのが(本人はリラックスし、むしろご家族が緊張されている様子も)印象的でした。今回2チーム参加し、どちらも完走を

果たしています。

「精神一到何事不成!」(一般の部)

総合 5 2 3 位  
 クラス別(一般) 4 1 5 位  
 タイム 4 : 1 7 : 0 2  
 一位とのタイム差 2 : 0 3 : 0 7

「スマイルランナーズ」(混合の部)

総合 ? 位  
 クラス別(混合) 7 5 位  
 タイム 3 : 4 0 : 2 4  
 一位とのタイム差 1 : 2 7 : 2 9

取材を通して感じたこと

宮崎氏の、本人の出来ていることを認めてほめ、一つのことをやりとげられる様に支援をしている姿や、出来ないことも受け入れて、皆一人ひとりを肯定した発言が印象的でした。

また、参加のご家族も皆さん前向きな発言をされていて、同じく一つのことをやり通せる様な手助けや応援をしていたのも印象的でした。

何より本人たちが走ったり、歩いたりしながらも、自分の区間を完走し、充実感がある様な姿に感動しました。

このレポートをご覧になり、ご興味のある方、参加希望の方は YMSN 鈴木まで、お気軽にお問い合わせ下さい。佐々木さんも「来年は身体を作って参加します」と意欲的でした。

( YMSN 相原俊介 )

## 研修会のお知らせ

<b>精神保健福祉研修会</b>	参加費 1回 500円 (年間4,000円)
日 時 :	毎月第2金曜日(12月休会 全11回) pm. 7:00~8:30
場 所 :	ひまわりの郷 OR ウィリング横浜 横浜市港南区 上大岡オフィスタワー
内 容 :	ホームページをご覧ください <a href="http://forest-1.com/ymsn/">http://forest-1.com/ymsn/</a>
<b>SST(生活技能訓練)研修会</b>	参加費 1回 1,000円 (年間7,000円)
日 時 :	毎月第3木曜日(8月・12月休会 全10回) pm. 7:00~9:00
場 所 :	横浜市総合保健医療センター 講堂
全体会 :	各施設・現場でのSST実践報告・ケースレポート(参加者の持ち回り)
分科会 :	A.完全初心者コース B.リーダー体験コース C.ステップ・バイ・ステップコース D.実践コース(7月から12月まではありません)

## 当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3水曜日(原則) pm. 2:00~3:00
	泉区生活支援センター	日程についてはお問い合わせください
就労フォロー アップミーティ ング	港南区生活支援センター	毎月第2土曜日 pm. 2:30~3:30
	神奈川区生活支援センター	毎月第4日曜日 pm. 2:00~3:00
	YMSN	OB会の開催 就労者のSST実施
SST	港南区生活支援センター	支援センターニュースでお知らせ

## 電話相談

第2・第4木曜日(2回/月) 10:00~15:30  
相談専用電話 045-841-8294

## 会員について

会員を募集します。YMSNの活動を応援していただける方は会員になってください。(会費 正会員年間5,000円)  
会員は、研修会(上記案内)への年間参加費が割引になります。  
精神保健福祉研修会(1,000円) SST研修会(3,500円)  
会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員5,000円(個人) 賛助会員12,000円(団体)

(正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先:郵便振替口座 00250-6-71607

横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol.6 No.1

めんたるねっと 第21号 2009年6月30日発行

間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行: NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク

理事長 武井昭代 編集代表 森川充子

〒233-0001 横浜市港南区上大岡東2-42-4

TEL 045-841-2179

FAX 045-841-2189

<http://forest-1.com/ymsn/>

e-mail: [ymsn@forest-1.com](mailto:ymsn@forest-1.com)

印刷: 横浜市総合保健医療財団

精神障がい者授産施設 港風舎印刷